

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 5 (2023) 年 5 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)URL <https://jha-e.jp/>受付時間 平日 10:00~17:00
発行日 毎月 1 日

「生きがい」の評価

住友 正幸

腫瘍学分類コース小委員会 委員長
徳島県立三好病院 名誉院長

久慈市山形町の炭焼き職人、葺澤彦蔵さん(85歳)をテレビで拝見した。炭焼きを始めて70年近く。毎日出来上がった炭を見ながら、さらに良いものを求めてきた。その上質で長く持つ炭は、震災でも高く評価されたのだそうだ。そしていま、県のチョコレートマイスターにも認定され、若い人への技術伝授に励み、愛弟子が内閣総理大臣賞を受賞するまでになった。その弟子が作品を見てもらいに来る。焼き上がったばかりの炭を見るや、相好崩して喜ぶ姿に、「ああ、これがこの方の生きがいなのだ」と思った。18歳から人生を共にする「ばば」(奥)さんが「貧乏で苦勞もしたけど良かった」と語られたのが印象的だった。

「生きがい」について、近年、世界で多くの出版がなされていて、どうやら日本の“ikigai”が注目されているらしい。脳科学者の茂木健一郎さんは“ikigai”と題した著書の中で、その要素に「小さな喜び」、「今ここ」をあげられているが、「生きがい」はどうやら自らの実存を生起させる、小さな(特に利他的)「行動」であるらしい。

また、Héctor García さんらは“IKIGAI”と題した著書で、沖縄県大宜味村住民の調査から、毎日の小さな仕事や友人との交流が「生きがい」をもたらし、長寿にも貢献しているとのデータを記されている。そうしてみると「参加」もその重要な因子らしい。

勿論、人生は厳しい側面を持つから、必ずしも思ったようにはゆかず、挫折もある。そのような時、神谷美恵子さんがその名著「生きがいについて」で語られたように、「置き換え」が起こって「新たな生きがいの発見」が起こることを祈るばかりである。そのような現象が起こりやすい社会構造がいま世界で注目されている訳だが、そのヒントは先の大宜味村にあるのかもしれない。

北欧には“hygge”を代表とするぬくもり感の共有習慣があり、幸福感のベースになっていると言われていいる。しかし、行動、時には仕事をも「生きがい」としてしまいう日本。幸福度ランキングは高くなくとも「幸せそうな」不思議の国。日本がいま、注目されている。

さらば、この「生きがい」の秘密を次世代や世界に伝えるために、その評価ができないものか。私には、その方法は診療情報管理士になら見いだせるように思うのだが、読者諸賢は如何考えられるだろうか。